

神奈川県立中原支援学校における学校運営協議会開催結果

○ 本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

会議等名称	令和5年度神奈川県立中原支援学校 第2回学校運営協議会		
開催日時	令和5年11月29日(水) 9:40~11:30		
開催場所	本校 支援ルーム		
出席者	学校運営協議会委員9名、事務局13名		
次回開催予定日	令和5年2月27日(火) 9:40~11:30		
問合せ先	神奈川県立中原支援学校副校長 坂戸 博子 電話(044)755-5018		
下欄に掲載するもの	・議事録・議事概要	公開を概要とした理由	
会議等経過	<p>○開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長挨拶 ・校長挨拶 <p>(1) 学校評価の中間評価報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学部・分教室の中間評価について ② 各グループの中間評価について <p>(2) 切れ目ない支援部会報告</p> <p>【質問・意見】</p> <p>○人権尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さんづけ呼称について、高等部では、自己理解と他者尊重ということを念頭において指導している。→意味を理解させた上で「～さん」づけとすることを伝えてほしい。 ・中学部では、同性介助としている。生徒の思いを表情などでもくみ取れるように取り組んでいる。 ・「～さん」づけは、LGBTにも関係していると考え。また、「がんばれ」という言葉は、頑張っている人に対しての使い方を考えるべきである。 <p>○地域やPTAの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルキャップやベルマークを地域から集めることは行っているか。個人で集めているので、学校で集めてもらえるとよい。→ベルマークの作業については、PTAの活動だけではなく、高B作業班に依頼できることがあれば相談したい。 <p>(3) 学校見学(耐震化工事終了後の校舎を見学)</p> <p>(4) なかはら未来会議の報告・協議</p> <p style="padding-left: 2em;">学校運営協議会委員、事務局合わせて21名がA～Dの4つのグループに分かれて協議。</p> <p style="padding-left: 2em;">テーマは、「A 学ぶ」「B 暮らす」「C 働く」「D つながる・楽しむ」</p> <p>【A グループ】</p> <p>○キーワード「交流」「学び」「障害者理解」「地域資源」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の学校の行事に参加、居住地交流など、交流をたくさん行う。 ・地域の学校の児童生徒も中原支援学校に来る機会を作る。 		

- ・共に学び共に生きるために障害者理解が必要であり、そのような教育ができるとうい。
- ・これからの学びのために、ボランティアなど人材や地域資源の活用を行う。

【Bグループ】

- キーワード「地域」「ICT」「世界・宇宙へつながる」「なかはらの未来は今この時から」
 - ・教育と福祉の連携を強める。
 - ・ICTを活用し、コミュニケーションの充実を図る。そのためには専門家も必要である。
 - ・進歩している技術の情報共有をする。
 - ・リアルタイムで世界や宇宙ともつながる→ICT

【Cグループ】

- キーワード「職場を知る」「人材育成」「制度の充実」「卒業後の居場所」
 - ・いろいろな職場を見学して社会を知る機会とする。
 - ・人材交流を行う。
 - ・保護者の負担が少なくなるような社会づくりができるとうい。
 - ・どの企業も障害者雇用ができるよう企業での人材育成が必要である。
 - ・卒業生の話を聞く機会を作る。
 - ・趣味の世界の集まりなど卒業後のコミュニティがあるとよい。

【Dグループ】

- キーワード「地域に知ってもらおう取組」「学校に来てもらう」「地域に出ていく」
 - ・自治会の回覧に学校だよりを入れてもらう。
 - ・地域の方向けに作業班で作製した品物を販売する。
 - ・作品をホームページに掲載し、販売する。
 - ・長期休業中に地域の方向けの研修会を実施する。研修内容が「配慮食について」であれば、高齢者の食形態につながる。
 - ・学校施設開放を行う。
 - ・休日登校も検討し、地域の行事に参加する。
 - ・居住地と学校とで地域が違うケースが多いので、保護者が居住地に出ていく必要がある。
 - ・中原支援学校のマスコットキャラクターである「はにっぴー」が地域に出ていく。

○閉会

- ・校長挨拶